

第3回湖西市下水道事業経営戦略検討会 議事録

- 日時：令和3年（2021年）3月25日（木） 14：00～15：10
- 場所：湖西浄化センター 2階会議室
- 出席委員等：（五十音順、敬称略）
菊地裕幸委員（委員長）、今瀬彰夫委員、猪井英典委員（副委員長）
【全3委員、出席3委員、欠席0委員】
事務局：川上部長、片山課長、廣川課長代理、高田係長、大塚主任、日恵野主任
傍聴者 2名

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事事項
- 4 委員あいさつ
- 5 環境部長あいさつ
- 6 閉会

事務局より「議事事項 パブリックコメントの結果」の説明

令和3年2月18日から令和3年3月19日までパブリックコメントを実施したが、意見は特になかった。

事務局より「議事事項 経営戦略（案）」概要説明

意見①＜委員＞

- ・下水道はあって当たり前の時代となっている。そのような状況下で、大変ではあるが機能保全に努めてほしい。特にキーとなる施設は浄化センター、マンホールポンプ場、管きよであり、これらの施設に何か問題があった場合は生活にすぐに影響を及ぼすことになりかねないため、そういった視点をもって、下水道経営、下水道管理に努めて欲しい。
- ・湖西浄化センター、新居浄化センター共に高度処理を行っている（当時、漁協から大変厳しい排出基準値を提示された。）。このことが費用増につながっている。現在、高度処理に対する是非も変わってきているため、今後はこのことについても議論される点であるということも考慮し、下水道事業を行うべきである。

意見②＜委員＞

- ・これから経営戦略をどのように活用していくかが大きな課題になる。
- ・人口減少、使用料減少の中で、収入（財源）を確保しながら建設・開発も進めていかなければならない。経営戦略を活用しながら投資と財源のバランスを考慮し、今後の経営を考えてほしい。

質疑①経費回収率、使用料単価について

- ・ P.16 経費回収率について、全国と比べると静岡県内が低い要因は？また、使用料単価が変動しているのはどういうことなのか。＜委員＞
 - 経費回収率が低い要因として、高度処理を行っていることが要因にある。
 - 使用料単価は使用料収入を有収水量で除して算出するものであり、毎年度の決算額で変動する。＜事務局＞
 - 湖西市の 2 浄化センターはどちらも後発部隊として起債を打って建設された。これからも整備が必要な状況であり、また先行して整備している施設もあるため、経費回収率はよくない。私費と公費という部分を丁寧に説明し、いただけるものはいただいて運営をしていくべきである。＜委員＞
 - 使用料単価が静岡県が全国と比べて安い要因に、特に富士山麓で水道料金が安価であることに起因している部分もある。＜事務局＞
 - この経営戦略には経費回収率を 100%にするために、使用料改定の検討も進めていくことは、持続可能な下水道事業を実現するため、避けられないことであると思う。その一方で、このような数字が独り歩きをして市民負担が大きくなるようなことがないように、バランスをとりながら市民生活に影響がないよう行政を進めていただきたい。＜委員＞

委員挨拶（3回の検討会を通じた感想等）

- ・ 下水道を取り巻く状況は 30 年前からずいぶん変化している。下水道の使命は汚水処理と水環境を改善していくことである。それらを念頭に置いて業務を行っていただきたい。＜委員＞
- ・ 令和 2 年度末までに経営戦略を作成しなければならないという中で、期限いっぱいまで意見をすり合わせて検討を行ったということは、今後の財産になる。今回の経営戦略を活用していただき、今後の経営に活かしていただきたい。＜委員＞
- ・ 下水道事業は市民生活に直結し非常に大切なものであるため、それが持続可能な中で発展していくよう、経営戦略を有効活用し、今後の下水道行政を進めていただきたい。厳しい状況下であり、市民への負担は避けられない。そういう中で、経営戦略の「取り組むべき施策」にも記してあるが、市民への理解をより促進するために、しっかりと説明をする、あるいは報告をするという形で市民への理解努力をお願いしたい。それと共に、一方的に情報を流すのではなく、市民への意見等も聞きしながら対話をする形でより良い下水道行政を築いてほしい。＜委員＞

下水道事業経営戦略については 3 月 31 日までに市のウェブサイトに掲載し、これをもって策定とする。＜事務局＞